

**所員個人研究**

— (小学校学習指導・体育)

一人一人を生かすバスケットボールの指導

学習指導部 西牧裕司

1. はじめに

一人一人の子どもが、それぞれの運動の楽しさに触れるように、興味・関心や欲求・意欲及び諸能力に応じた学習をさせなければならない。

ところで、子ども一人一人は、それぞれに個性があり、学習のテンポも異なるし、学習のリズムも違う。その中で、個性を大切にし、一人一人を生かす集団的スポーツの在り方についてバスケットボールを例に述べてみたい。

2. 学習過程の改善

これまでの学習過程をみると、個人練習→グループ練習→ゲームという過程がみられるがこの過程は、技能の低い子や、体育を苦手としている子の立場に立っているとは言えない。そこで、それらの子どもにとっても楽しい、ゲームそのものを追求させる過程が考えられる。まず、チームの課題をはっきりさせ、簡単なルールや技術でゲームを楽しませ、次に相手チームに応じた作戦や練習、ルール等を工夫することにより高度なゲームが楽しめるようにさせる。そのためには、ゲーム→練習→ゲームの過程が大切であるとする。

3. 授業の実際

【1 単元】 バスケットボール

【2 バスケットボールの特性】

(1) 一般的特性

バスケットボールは、チームを編成し、手でボールを扱い、味方同志が協力して一定の方法やルールをもとに、2チームが双方入り交じって攻撃したり、防御したりして高い所に設置されている相手のゴールにシュートして、得点や勝敗を競い合う運動である。

(2) 子どもからみた特性

- ① みんなでルールを工夫したり、パス・ドリブル・シュートなどの技術を使って、ゲームをすることが楽しい。
- ② 男女差や個人差が目立ってきているために、お互いの能力の違いをよく理解し、助け合ったり、教え合いがあるとゲームが盛り上がり、楽しく運動できる。
- ③ チームで作戦を考え、励まし合ってゲームをして勝つと楽しい。

【3 学級の子どもの実態】

一人一人がどのくらいの能力なのか。運動に対してどんな欲求を持っているのかを、ジグザグドリブル、フットワーク、シュート等の技能、体育の好き嫌いやバスケットボールについて調査した。

(表①、②)

表① 技能の実態

調査 番号	氏名	壁バス (2m 30秒)	ジグザグ ドリブル	フリースロー (10回中)	ランニング シュート (10回中)	フット ワーク	身長
1	A・S	20回 (2)	15.9秒 (4)	0	6	13.1秒 (2)	160cm
2	R・M	22回 (4)	15.1秒 (4)	0	4	12.2秒 (3)	144cm
3	K・E	26回 (5)	16.1秒 (4)	1	4	12.8秒 (3)	157cm
4	D・I	16回 (2)	18.7秒 (3)	3	2	18.8秒 (1)	165cm
5	T・O	18回 (3)	22.2秒 (1)	1	2	18.9秒 (1)	142cm
6	H・S	10回 (1)	18.9秒 (3)	2	3	11.7秒 (4)	147cm
7	T・S	18回 (3)	18.4秒 (3)	0	1	12.9秒 (3)	161cm
8	Y・S	19回 (3)	18.4秒 (3)	4	0	13.9秒 (2)	137cm
9	H・Y	19回 (3)	17.2秒 (3)	0	3	12.5秒 (3)	146cm
40	T・Y	21回 (4)	15.1秒 (4)	2	3	11.5秒 (4)	150cm

※○壁バス、ジグザグドリブル、フットワークは5段階にわけ5～1点とした。

○フリースロー、シュートは回数を点数とした。

○技能の優れている子、身長の高い子、リーダーになれそうな子をそれぞれの班に入れてチームを編成した。